

あとがき

日頃から本校の教育活動に御指導と御支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。

さて、本校は20年の歴史と伝統を礎に平成27年度からスタートした第7次研究では、「卒後を見据えたキャリア発達を促す指導法の研究～協同学習と生活指導の充実を目指して～」を研究主題とし研究を進めてまいりました。これは、第6次研究で行われた調査研究の事例で共通していた内容である「コミュニケーション能力の不足」「生活にかかわる問題」をどのように解決し、卒業後の社会生活へスムーズに移行できるのかを踏まえて設定されたものです。

本年度の研究では、1、2年次の研究の成果と課題を受けて、課題研究やプロジェクト研究、調査研究や寄宿舎研究など、4つの研究の形態に分かれて、研究グループを編成し、検証・検討・改善・実践を行ってきました。

課題研究では、コミュニケーション能力や人と関わる力を高めるために「協同学習」という学習手法を取り入れて全員が授業研究を行ったことにより、協同学習の手法に対する教職員の理解は浸透し、生徒のコミュニケーション能力を向上させることができました。

プロジェクト研究では、観点別評価のしくみを整えることによって、評価の根拠を説明できる重要性について教職員が共通理解し、単元・題材の目標や評価規準・評価基準を明確に設定する風土が醸成されました。また、単元指導計画と評価に用いる補助簿を一体化する様式をシステム化したことによって、より一層観点別評価に基づく単元の指導を意識できるようにもなりました。さらに今年度から始まった模擬株式会社について実践をしていく中で、現状における成果と課題を明らかにすることができました。

調査研究では、卒業生の現状を伺うことができる様々な機会を通して卒業生の実態を調査し、在学中に身につけさせるべき課題について明確にすることができました。

寄宿舎研究では、寄宿舎の研究では、舎友会活動における指導の工夫により自主性や協調性を育成し、自己管理能力の向上と維持につなげることができました。

3年間の研究を終え、今後の教育活動への道標となる成果と課題が明らかとなった今日、その成果を本校に学ぶ生徒への指導・支援の在り方に結び付けていくことが、今後の私たちの使命であると考えております。

今後も、生徒一人一人が卒業後の社会生活に対して夢や希望をもち、充実した生活が送れるよう研究を推進していきたいと思っております。そして、信頼される学校づくりを行うために、本紀要を御精読いただいた皆様方から、本校の研修に対しまして、御指導、御鞭撻をいただければ幸いです。

平成30年3月

北海道今金高等養護学校

教頭 業 天 誉 久

共 同 研 究 者

学校長 高嶋 利次郎
教 頭 業天 誉久
事務長 澤田 憲一

<教務部>

1 学年 内田 義文 、小林 和幸 、西脇 功二 、山田みゆき 、野呂 篤志
小原 政住 、住谷 亮 、中市 浩史 、村瀬はるな 、高山 愛望
海田 健 、飯嶋 翔世 、出村 朱美 、橘 晴美

2 学年 田中龍右エ門 、中島 朋之 、上村 幸教 、津村 理子 、山木 謙
高田のぞみ 、金子 亘喜 、成田 直浩 、矢倉 一 、石田 浩子
工藤 大地 、木田 絢子 、森山 紫帆 、青山 未帆 、竹花 健太
吉本 香奈

3 学年 泉谷 好子 、田中 博昭 、祐川建一郎 、石川 誠 、初山小枝子
岩城 研太 、亀田 倫代 、鐘ヶ江真知 、山本 拓郎 、穴田 祐美
関口 浩介 、林谷 和織

<舎務部>

生内 希 、竹端 賢一 、伊藤 亮 、和田 雅史 、清野 恵美
武部ひとみ 、泉波 卓也 、小林 千春 、折原 健 、猪瀬 雅法
村田 祐介 、島野 五樹 、工藤 晴奈 、佐藤 友梨 、澤谷 由江

<行 政>

雨谷 敬子 、山崎 直樹 、森屋 香 、川崎 澄子 、藤倉 雄一
高野美智代

平成 2 9 年度 研究紀要 **創** TSUKURU 第 2 0 号

発行者 北海道今金高等養護学校長 高嶋 利次郎

発行日 平成 3 0 年 3 月 3 0 日

〒 0 4 9 - 4 3 0 4 北海道瀬棚郡今金町字今金 4 5 4 番地 1

T E L (0 1 3 7) 8 2 - 3 1 2 1

F A X (0 1 3 7) 8 2 - 3 0 9 2